

笑顔を守る宝物

新潟市立横越中学校 3年 中村 碧

私の家から車で十分位の所に大好きな祖母の家がある。近いので小さい頃から週末はよく遊びに行った。公園や海や山で遊んでもらったり、一緒に工作をやったり絵手紙を書いたりもした。祖母の絵手紙はすごく上手で、私の誕生日や体育祭など行事があるたびに届いた。私の両親もその絵手紙の大ファンだった。そして祖母は私が行くたびにとっても美味しい手作り料理を作ってくれるので毎週食べるのがとても楽しみだった。

そんな多彩でパワフルな祖母が二年前重い病気にかかった。骨が壊れていく病気で体中が痛い様子だった。手術を受け、即入院をした。そして、一年くらいの入院を経て祖母が家に帰ってきた。一年前とは全く別人のような姿だった。絵手紙を書く体力もなくなり、あんなにやる気に溢れていた祖母は何も手につかない状態になっていた。祖母は自分で家のことや自分のことをするのはとても難しく、退院後は介護施設に通うことになった。母からショートステイは食事、入浴、排泄などの身体介護、機能訓練、レクリエーションや生活相談など様々なサービスが提供される場所だと聞いて私はとても安心した。

しかし年金で生活している祖父母にとって手術、入院、そしてショートステイと経済的にも大きな負担になるのではないかと心配になり、母に尋ねてみた。

「入院や治療をするためには、本当なら何十万もかかるけど、医療費が人々の生活を圧迫する事がないよう、高額になった医療費をカバーする高額療養費制度という制度によって負担が軽減するんだよ。介護施設も介護用品も、費用負担が過大にならないように税金が助けてくれてるんだよ。」という母の話を聞いて、初めて医療費や介護施設費、介護用品などにもたくさんの税金が活用されていることを知った。

一年前まで、もう前みたいに歩けないかもしれないと言われていた祖母が、たくさんの治療とリハビリを繰り返し、今は思っていた以上に回復し、前よりかなり元気に過ごすことができるようになった。「今日ね、介護施設の友達と介護士さんが私が施設の自由時間に書いた絵手紙を見て、すごく褒めてくれたの！」と満面の笑みで話す祖母。介護施設の皆さんのおかげで、また祖母が絵手紙を書き始めた。私のために張り切って楽しそうにご飯を作ってくれることもある。毎日元気に笑う祖母を見て、病気になる前の祖母が戻ってきたように感じ、私はとっても嬉しかった。

祖母も世の中のお年寄りの皆さんも、高額な医療費や介護サービスだったら、もう一度頑張ってみることを諦めていたかもしれない。税金は大切な人の快適な生活や生命を守ってくれる宝物だと思う。だからこれからは、そんな税金に感謝しながら、私もいつかしっかり働いて、税金を納められる人になっていこうと思う。